

2017 年度 入学 試験 問題

世界史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この問題冊子が、出願時に選択した科目のものであることを確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙には、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入およびマークしてください。解答欄以外への記入およびマークは無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。
5. 解答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。また、マーク解答用紙を記述解答用紙の下敷きを使用しないでください。
6. 解答用紙には、必ず受験番号と氏名を記入およびマークしてください。
7. マーク解答用紙への受験番号の記入およびマークは、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

I つぎの文章 (A～C) は、殷から秦漢時代に関する中国の歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。(32点)

A 前二千年紀(前16世紀ごろから前11世紀ごろ)に実在した殷(商)は、多くの氏族集団が連合し、王の都のもとに多数の邑(城郭都市)が従属する形で成り立った国家であった。殷では、宇宙を支配する帝(上帝)と王の祖先がともに崇拝された。王はその祭祀をつかさどり、帝の意志を占うことによって、神権政治をおこなったが、やがて前11世紀ごろに、西方辺境の氏族が殷を滅ぼした。それが周であった。

新たな盟主となった周では、都を鎬京(現在の西安付近)におき、また東方の拠点も建設された。そしてそこでは、領地の分与による統治のしかたの1つである(1)制が敷かれた。すなわち、周の(1)制では、周王が一族や功臣と連合に加わった有力氏族の首長をそれぞれ諸侯に任じ、領地と農民を世襲的に支配させた。さらに諸侯らはまた、一族を卿・大夫・士の身分に分け、卿・大夫に領地を与え、農民を支配させた。さらに諸侯などは、本族・分族といった血縁集団(宗族)を組織し、宗法とよばれる規範で結束をつよめた。

その後、西北の周辺民族の活動が活発化したため、前8世紀に周は都を鎬京から東方の拠点に移すこととなった。その前770年からはじまる東周時代は約550年間つづいた。これが春秋・戦国時代である。なお、それ以前を西周時代という。それらを経て、最初の統一王朝となったのが、戦国の七雄の1つである秦であった。秦王の政は、前221年に全国を統一して君主となった。そしてこのとき、中国ではじめて王にかえて皇帝の称号が採用されたのである。

始皇帝は、世襲にもとづく(1)制にかわって、中央から官吏を派遣して各地を統治させる(2)制を施行した。その(2)制のもとでは、皇帝権力^(b)による中央集権化がはかられた。ところが、始皇帝の死後、陳勝・呉広の乱がおこるなどして、秦は前206年に短命で滅んだ。しかしながら、中国では、秦の時代に中央集権国家が成立し、こうした統治はその後およそ2千年にわたり、その国家体制の礎となったのである。

B その秦にかわって、前202年に長安（現在の西安）を都としておこったのが漢であった。そこでは、秦の行政制度を引き継ぎつつも、さらに王国を設けて、皇族や功臣たちを諸侯王とした。これを（ 3 ）制という。つまり、漢のはじめに採用された（ 3 ）制では、（ 1 ）制と（ 2 ）制が併用される形となった。しかしその後、諸侯の権力はしだいに奪われていった。また、それに抵抗する（ 4 ）の乱が前154年に鎮圧されたことで、漢の（ 3 ）制は実質的に（ 2 ）制とほとんどかわらないものとなったのである。

そして、秦につづいて、漢でも、第7代皇帝の武帝（在位前141—前87）のころまでには、やはり中央集権化がはかられた。その強力な権力のもとで、前2世紀後半に大規模な対外戦争をすすめた武帝であったが、かれはまた内政改革にも取り組んでいった。つまり、均輸・平準法などの政策により、その深刻な財政難をのりきろうとしたが、結局失敗した。その治世には、皇帝に権力が集中したわけだが、その死後、皇帝権力は逆に弱まった。すなわち、大土地所有をおさえる限田策は徹底せず、かえって豪農が成長して、地域社会に勢力をはり、官僚となって中央・地方の政界にも進出していった。そしてそれらの台頭にくわえて、皇帝の側近である外戚や宦官のあいだでも権力抗争が生じたのである。

そうしたなかで、外戚から出た（ 5 ）が新をおこした。なお、それ以前の漢を前漢という。（ 5 ）は、周代の制度を理想と考えてその復活をはかり、急激な変革をおこなったが、赤眉の乱など各地で反乱がおこり、新はまもなくたおれることとなった。

C そして、この動乱のなかから勢力を伸ばしたのが、漢の一族の劉秀であった。かれは、漢を復興して光武帝（在位25—57）となった。これが後漢である。かれは都を（ 6 ）に移し、内政重視の政策に転換し、漢王朝を再興した。後漢では、はじめ内政に力を入れていたが、やがて西域に進出し、（ 7 ）が西域都護となり、西域支配につとめ、部下の甘英を大秦国に派遣した。

その後、官界に進出した豪族の勢力と外戚・宦官との権力抗争がつよまった。つまり、中央における宦官による官僚や学者にたいする弾圧であった166年・169年の（ 8 ）などの党派争いがくりかえされ、中央の政治はみだれにみだれた。さら

に2世紀末には、張角が組織した太平道などの宗教結社がつくられた。張角は、困窮した農民を武装化して、184年に黄巾の乱をおこした。この乱ののち、高官や豪族も私兵を集めて自立し、各地で軍事集団による群雄割拠の状態がうまれ、220年についに後漢は滅亡した。

なお最後に、漢の時代の文化についてみると、歴史書では、(9) の『史記』や (10) の『漢書』などが特筆される。

設問1 空欄(1~10)に入るもっとも適切な語句を答えなさい。なお、(5)(7)(9)(10)には人名が入る。

設問2 下線部(a)について。中国の春秋・戦国時代に関するつぎの記述(あ~う)は正しいか。それぞれについて、正しければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

あ. 春秋時代には、鉄製農具の使用がはじまった。

い. 春秋・戦国時代を通じて、華夷思想がしだいに形成された。

う. 戦国時代に漢字のもととなった甲骨文字が発明された。

設問3 下線部(b)について。この中央集権化等に関するつぎの記述(あ~う)は正しいか。それぞれについて、正しければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

あ. 租・調・庸という新しい税制が全国で実施された。

い. 文字・貨幣・度量衡の統一がはかられた。

う. 焚書・坑儒による思想統制がなされた。

設問4 下線部(c)について。この平準法とはいかなる制度か。30字以内で説明しなさい。

設問5 下線部(d)について。光武帝の事跡等に関するつぎの記述は正しいか。正しいものを1つ選んで、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 戦国時代の長城を修築して匈奴に対抗した。
- ② 華南を征服して南海（現在の広州）などに3郡をおいた。
- ③ 倭人の使者に金印を授けた。
- ④ その陵の墓域にうめられたのが「兵馬俑」である。
- ⑤ 江南と華北を結ぶ大運河を建設した。

設問6 下線部(e)について。当時の官界に進出した豪族の勢力と外戚・宦官に関するつぎの記述（あ～う）は正しいか。それぞれについて、正しいければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- あ. 豪族には科挙により登用された官吏が含まれる。
- い. 外戚には皇后の親族が含まれる。
- う. 宦官とは宮廷につかえる去勢された男性のことである。

設問7 下線部(f)について。武帝の時代に、董仲舒の提案により、儒学が官学とされた。儒学の主な経典である五経とは一般に何をさすか。そのうち3つは『易経』・『書経』・『詩経』である。のこりの2つの正しい組み合わせを1つ選んで、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 『礼記』・『春秋』
- ② 『礼記』・『大学』
- ③ 『中庸』・『春秋』
- ④ 『中庸』・『大学』
- ⑤ 『論語』・『大学』

II つぎの文章はドイツの歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。(36点)

ヨーロッパと称される地域にも多くの国が存在し、その歴史や文化は一様ではない。たとえばイギリスとふだん私たちが呼んでいる「グレートブリテンおよび北アイルランド連合王国」^(a)は立憲君主政の国である。それに対してフランスは中央集権的な色合いの強い共和政の国であり、ドイツは同じ共和政でも連邦国家である。ドイツの歴史を理解しようと思うならば、この連邦制という統治形態は重要な意味を有しているのだが、まずはイギリス・フランス・ドイツという3カ国の比較をもう少しつづけてみることにしたい。

周知のとおり、それぞれの国の首都はロンドン・パリ・ベルリンである。これらの都市のなかでも、ベルリンは少しばかり異色だということができる。ロンドンとパリは、ディケンズの小説『二都物語』が象徴的にしめしているように、たんに一国の首都^(c)というにとどまらず、早い時期からヨーロッパの政治的・経済的・文化的発展の拠点であった。しかも、この2つの都市の歴史はイギリスやフランスという国家の成立よりも、また英語やフランス語という言語の形成よりもはるか以前に遡ることができるのである。ロンドンの場合、ローマ人が建設したロンディニウムがその起源であり、パリの場合、そのパリという名称そのものは、この地に住み着いたケルト系のパリシイ人に由来している。

それに対してベルリンという都市の始まりはずっと新しく、通常、13世紀だとされる。15世紀以降、この都市は(1)選帝侯の居城都市として発展した。17世紀には(1)選帝侯国はプロイセン公国と合併する。しかしこの国が王国に昇格するのは1701年まで待たねばならなかった。(2)戦争のさいに皇帝を援助したことによって、王号を許されたのである。こうして見ると、ベルリンという都市はドイツにおいてもっとも古い歴史をもつ都市というわけではなく、また地理的に有利な位置にあったわけでも、交易の要衝であったわけでもない。むしろ辺境の都市だったのである。そして、いうまでもなく、ベルリンがただちにロンドンやパリに匹敵するような都市の仲間入りをしたわけではなかった。明治新政府の派遣した使節団^(d)が1873年にこの地を訪れており、ロンドンやパリの壮麗さと繁栄ぶりに圧倒されたあ

と、ベルリンに関しては少しばかり異なる筆致でその印象を記している。「此府ノ繁昌ハ、近年国勢ト共ニ^{しんしん}駈進シ、^{ロンドン}倫敦、^{パリ}巴黎ト、殆ト相較セントスル勢ナレトモ、尚第二等ニオキテ論ゼサルヲ得ス」。つまり19世紀のベルリンは、近代化の端緒についたばかりの日本人の目にさえも、活気にあふれてはいるが未成熟で発展途上の新興都市というふうに見えたのである。

今度は国の名称に着目してみよう。Englandとはもともと「アングル人の土地」という意味であり、Franceという国名は^(e)フランク人がその起源である。ドイツに関しても、その英語の名称のGermanyを思い出して、ドイツとはすなわちゲルマン人の国だと考えるひともいるかもしれないが、それはかならずしも適切ではない。アングル人やフランク人も数多く存在するゲルマン諸部族の一派であって、つまりゲルマンとはさまざまな部族をまとめた総称なのである。だからこそ20世紀になってアドルフ=ヒトラーはみずからの人種主義的な思想を述べた『(3)』のなかで、アメリカ大陸における合衆国の繁栄を、ゲルマン系民族の優越の証だとみなすことができたのである。けれども興味深いことに、ドイツのひとびとは自分たちの国を何らかの民族名をもちいて呼ぶことはせず、^(f)ドイチュラント (Deutschland) と呼んでいる。現在のドイツ語では、ドイチュとは英語のGermanに相当する名詞・形容詞であるが、そもそもこの語は何らかの民族や部族を指す言葉ではなかった。ドイチュという語は、「民衆の」という意味でもちいられていたtheodiscusという単語に由来すると考えられている。たとえば8世紀、ラテン語と対比される民衆たちの言語を指すさいにこの単語が使用されており、それがのちに音が変化して、現在使用されるドイチュという語が生まれたのである。つまり、ドイチュラントの語源から考えるなら、ゲルマン諸部族のあいだに当初から明確な同族意識があったわけではなく、こうした自覚はかなり後になってから、それも共通の祖先をいなく血縁的共同体というよりも、むしろ共通の言葉を話す言語共同体としてその自覚は生まれたということになる。

さて、フランスにしてもドイツにしても、その国家としての始まりの時点や出来事を明確に特定できるわけではないが、いずれにせよ両国の歴史を考えるうえで843年の(4)条約が重要な意味をもつことはまちがいない。この条約によってフランク人の王国は東・西・中部の3つに分割され、そのいずれの地でもフランク人の王朝は途絶えてしまう。そして西の王国では、(5)伯のユーグ=カペーが⁽ⁱ⁾新たな王朝

を開き、東の王国では、(6) 人の王朝がはじまり、その2代目の王オットー1世が皇帝の帝冠を授けられることになる。新たな帝国の始まりである。けれども、のちに「神聖ローマ帝国」と称することになるこの帝国に、その大仰な名称にふさわしい内実がつねに備わっていたかという点、かなり疑わしい。この帝国には確固とした統一的な統治機構が存在したわけでも、首都の機能を果たすような中心的都市が存在したわけでもなかった。当時のドイツには(6) 以外にも複数の有力な諸侯(大公)が存在し、皇帝といえども絶対的な支配権を確立していたわけではなかったのである。むしろ、皇帝という称号とその象徴的権威によって、かろうじてドイツという、中心を欠いた連合体を維持しえたのであり、だとすれば、後世の歴史家によって、本国の統治をおろそかにしドイツ分裂の元凶と非難されることになる(7) 政策も、当時の皇帝たちにとっては必然的な選択だったと考えるべきなのかもしれない。

その後のドイツの歴史を少し駆け足でたどってみることにしよう。まず注目すべきは1648年のウェストファリア条約⁽⁸⁾である。これによってドイツはおよそ300の独立した領邦国家に分裂し、神聖ローマ帝国はほとんど有名無実なものとなり、化してしまふ。次に重要な画期として挙げるべきは、ナポレオンによるドイツの制圧であろう。ナポレオンは300にのぼる領邦国家を40ほどの単位に整理し、1806年には西南ドイツの諸侯によって(8) を結成させた。このナポレオン戦争の間に神聖ローマ帝国は消滅し、ウィーン会議のあとも帝国は復活することはなく、ドイツでは35の君主国と4つの自由市からなる(9) が形成された。1848年5月には、ヨーロッパ各地で革命の機運が高まるなか、ドイツ各地の代表が集まって(10) 議会が開かれ、ドイツの統一と憲法形成が討議されたが、この自由主義的な統一の試みはプロイセン国王の拒絶によって失敗に終わった。けっきょくドイツの国家統一はプロイセン王国の力を背景にしてなしとげられることになる。とはいえ、このドイツ帝国も(11) を除外することによって成立しえたのである。1938年にはナチ政権下のドイツが(11) を併合する。第二次世界大戦後には、東西ドイツ国家が誕生し、両ドイツ国家が統一されるのは、ようやく1990年のことであった。

設問1 空欄(1~11)に入るもっとも適切な語句を答えなさい。

設問 2 下線部(a)について。この国の歴史に関する記述として、正しいものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 13世紀、ウェールズはイングランドに併合された。
- ② 16世紀、クロムウェルはアイルランドとスコットランドを征服した。
- ③ 18世紀、イングランドとアイルランドは合同してグレートブリテン王国となった。
- ④ 19世紀、アイルランド自治法が成立した。
- ⑤ 20世紀、第二次世界大戦後にアイルランドは自治領となった。

設問 3 下線部(b)について。現在のフランスの共和政は第5共和政と呼ばれる。この第5共和政が始まる直接のきっかけとなったのは、植民地の独立運動に端を発する戦争だった。その戦争は何か。その名称を答えなさい。

設問 4 下線部(c)について。ディケンズとほぼ同じ時期に活躍した文学者は誰か。正しいものを1つ選んで、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ① ヴィクトル=ユゴー ② シェークスピア ③ スウィフト
- ④ セルバンテス ⑤ トーマス=マン

設問 5 下線部(d)について。この使節団の中心となる大使は誰か。その名前を答えなさい。

設問 6 下線部(e)について。フランク王国に関する記述として、正しいものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① クローヴィスはキリスト教アリウス派に改宗した。
- ② カール=マルテルはトゥール・ポワティエの戦いでアッパース朝イスラームを撃退した。
- ③ ピピンはラヴェンナ地方を教皇に寄進した。
- ④ カール大帝はレヒフェルトの戦いでマジャール人を撃退した。
- ⑤ アリストテレス哲学などのギリシア古典文化がアラビア語を介して伝えられ、カロリング=ルネサンスが開花した。

設問7 下線部(f)について。この王朝の時代の出来事として、正しいものはどれか。

1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① アルビジョワ十字軍によってフランス南部の異端派が制圧された。
- ② イギリスとのあいだに百年戦争がはじまった。
- ③ 国王・貴族・平民からなる三部会が開催された。
- ④ 重税に反対してジャックリーの乱が起きた。
- ⑤ ロロがノルマンディー公国をたてた。

設問8 下線部(g)について。ヨーロッパの国際秩序の変遷をたどるとき、ウェストファリア条約の締結は重要な意味をもっている。それはなぜか。解答用紙の空欄をうめる形で15字以内で答えなさい。

III つぎの文章(A～C)は南北アメリカ大陸の歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。(32点)

A ラテンアメリカでは、アメリカ独立革命とフランス革命の影響を受けて、18世紀末から独立運動がおこった。まず、フランス領サン=ドマングで(1)を指導者として黒人奴隷の独立運動がおこり、1804年に、最初の黒人国家であるハイチ共和国が独立した。アメリカ合衆国政府は自国の黒人奴隷の解放運動への影響を懸念し、ハイチ独立運動を危険視した。ハイチは国際的に孤立し、独立を承認する国があらわれなかった。結局、フランスに承認の見返りとして金銭を支払い、これが経済を悪化させた。新しい国の名である「ハイチ」は、「山の多い土地」を意味するインディオのことばである。

(a)しかし、多くの国が独立したのは1810～20年代にかけてであった。ナポレオン時代に、スペインのラテンアメリカ支配がゆらぎ、(2)は、19世紀初めにベネズエラとコロンビアを解放し、1825年にはボリビアを独立させた。(3)もアルゼンチンやチリを解放した。一方メキシコでは、クリオーリョのカトリック聖職者(4)を指導者として、インディオやメスティーソが蜂起した。メキシコは、これを契機として1821年に独立し、24年には共和国憲法が定められた。また、ブラジルではペドロが帝位につき、「ブラジル帝国」として独立した。

B アメリカ合衆国は1823年、モンロー宣言を^(b)発して、ラテンアメリカの独立を事実上支持した。ラテンアメリカへの経済的進出をはかるイギリス外相(5)も、モンローに同調した。クリオーリョは、独立後にイギリスを中心とする欧米諸国に原料や食料を輸出し、それらの国から工業製品を輸入する自由貿易政策を採用した。主要都市における交通や社会設備は近代化していくものの、国内工業の成長はすすまず、資本はとくにイギリスに依存したため、ラテンアメリカ諸国は事実上、イギリスの経済的支配のもとにおかれていった。このように、独立したラテンアメリカ諸国は、必ずしも順調に発展したわけではなかった。

ラテンアメリカ諸国では、厳しい階層秩序が存在していた。この階層秩序は、統治者であるヨーロッパ人、植民地生まれの白人であるクリオーリョ、クリオーリョ

とインディオの混血であるメスティーソ、クリオーリョと黒人の混血であるムラート、黒人奴隷、インディオから構成されていた。独立運動の中心となったのは、クリオーリョの大地主層であり、この運動に協力したのがメスティーソであった。独立後もこの階層秩序が維持され、クリオーリョらによる大土地所有^(d)が存続することになり、極端な貧富格差と社会的不平等が残った。共和制が多くの国で採用されたにもかかわらず、実際にはクリオーリョの大土地所有者や地域ボスなど少数の実力者による寡頭支配がつづいた。独立後に政治が比較的安定していたのは、チリと、旧ポルトガル領ブラジルくらいであった。

C モンロー宣言を出したアメリカは、19世紀末から中南米への影響をますます強めた。1890年にフロンティアの消滅が宣言され、世界最大の工業国となったアメリカ合衆国は、対外的な勢力拡大を本格化した。南北アメリカ諸国間の関係強化をめざすパン=アメリカ会議を1889年に主催し、ラテンアメリカ諸国を勢力下におこうとした。また、アメリカは、(6) 独立支援を理由に1898年アメリカ=スペイン戦争^(e)をおこした。この戦争の結果(6) はスペインから独立したものの、事実上アメリカの保護下におかれることになったのである。

共和党の(7) 大統領は、中米諸国に対して武力干渉をとまなうカリブ海政策^(f)を展開した。パナマをコロンビアから分離独立させ、カリブ海と太平洋を結ぶ運河および運河地帯の、租借権・管理運営権などを1903年に得た。また対外債務の肩がわりなどによって、ドミニカ・ニカラグア・ハイチなどでの支配も強化した。

アメリカはメキシコへの経済進出もすすめた。メキシコでは、1910年、自由主義者(8) の武装蜂起によってディアス独裁体制^(g)の打倒と政治の民主化をめざす運動がはじまった。大統領となった(8) は暗殺され、内乱状態がつづいたが、1917年に土地改革や勤労者の権利、政教分離などをうたった民主的な憲法が制定された。このメキシコ革命には、貧しい農民も参加して土地改革を要求したが、農民軍の指導者(9) も1919年に暗殺され、改革は不徹底に終わった。そして、1920年に内乱が収束したのちも、アメリカ資本の影響力は残り続けた。

設問 1 空欄 (1～9) に入るもっとも適切な語句を答えなさい。なお、(6) 以外には人名が入る。

設問 2 下線部(a)について。19 世紀後半、インディオの保護と復権を主張したペルーなどでの政治・社会運動とは何か。その名称を答えなさい。

設問 3 下線部(b)について。モンロー宣言に関するつぎの記述 (あ～う) は正しいか。それぞれについて、正しければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

あ. 労働運動と先住民独立運動を結びつけて、国境をこえた団結をうたった。

い. ヨーロッパ列強による南北アメリカ大陸への武力干渉を拒否した。

う. 20 世紀、アメリカ合衆国はこの宣言を破棄し、国際連盟に参加した。

設問 4 下線部(c)について。17 世紀から 18 世紀にかけてイギリスが特定の農産物や鉱産物などをさまざまな領地で生産させた経済構造とは何か。その名称を答えなさい。

設問 5 下線部(d)について。この大土地所有制に関するつぎの記述 (あ～う) は正しいか。それぞれについて、正しければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

あ. 17 世紀はじめからラテンアメリカのスペイン植民地で広がった。

い. キリスト教に改宗させることを条件に先住民を奴隷的労働者として使用することを認めた。

う. この大土地所有制をアシエンダ制と呼ぶ。

設問 6 下線部(e)について。以下の選択肢の中にはこの戦争の結果アメリカ合衆国がスペインから獲得した領土が3つある。その3つすべてを選んでマーク解
答用紙にマークしなさい。

- ① グアム
- ② ギアナ
- ③ フィリピン
- ④ プエルトリコ
- ⑤ タヒチ

設問 7 下線部(f)について。アメリカ合衆国のカリブ海政策における強引な帝国主
義政策は何と呼ばれたか。その名称を答えなさい。

設問 8 下線部(g)について。ディアス独裁体制以前に、土地改革などを断行し、保
守派の政府と戦った先住民出身の大統領は誰か。その名前を答えなさい。